

青少年のための科学の祭典 2018 に 総合科学コース生徒が参加しました

8月25日（土）・26日（日）、兵庫県立大学姫路工学キャンパスで、「青少年のための科学の祭典 2018 姫路会場大会」が行われ、本校総合科学コースの生徒が参加しました。

「視覚の不思議」をテーマに、来場者の子どもたちにベンハムのコマ（白黒のコマを回すと、赤・青・緑などに色づいて見えるコマ）の工作を行ってもらい、色の錯覚について学習してもらいました。大変好評で、2日間で200名以上の方に楽しんでいただくことができました。

本校生徒にとっても、「科学の面白さ」を伝える楽しさ・難しさの両方を学ぶことができたイベントになりました。



ベンハムの独楽を作ってもらいました



青少年のための科学の祭典 2018



難しいところは、高校生が手伝います

この様子は、神戸新聞の記事にも掲載されました（次ページ）。



実験多彩 児童ら夢中

姫路の県立大で「科学の祭典」

高校生や学生が指導

子どもが理科の面白さを体感する「青少年のための科学の祭典」が25日、姫路市書写の兵庫県立大姫路工学キャンパスで始まった。小中学生らが多彩な実験や工作に挑戦し、好奇心に目を輝かせた。

小学校から大学まで理系科目の教諭や研究者らでつくる実行委員会が主催。1995年度に神戸で始まり、今年が姫路など県内6カ所で開かれる。

姫路会場ではこの日、金属のメッキ加工や石こうを使った化石レプリカの作成など36のブースが並んだ。高校生や県立大生ら

が子どもと対話しながら、原理や手順を丁寧に教えた。

福崎高校は白黒の模様を描いたコマを回すと色があ

るように認識する「錯視」

がテーマのブースを担当。

2年中塚皓暉さん(16)は

「体験すると子どもの表情

が一変する。理科に興味を

持つきっかけになるとうれ

しい」と話していた。

26日まで。午前10時～午

後4時半。無料。問い合わせ

せは山本一芳教諭☎080

・1330・6692

(小林良多)



動滑車を使った実験で、自分の体を軽々と引き上げる子ども―姫路市書写